

研究テーマ

# IT 学習成果の地域への還元

—地域課題の解決を目指して—

岐阜県立中津商業高等学校

## 中津商業高校ってどんな学校ですか？

「質実剛健」を校訓とし、本年度100周年を迎える伝統校で、流通・経済・会計を主に学ぶビジネス科、システム開発・活用を主に学ぶビジネス情報科があり、地域や企業と連携した学習をとおして、時代に対応した専門的知識を身に付け、地域に根差し地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指します。



## この研究テーマを選んだ理由は・・・

地域には、全国的にも有名な観光地である「馬籠宿」をはじめ多くの観光地があり、古くは中山道の要衝として、新しくは「リニア新幹線」の県内唯一の駅ができる地として、行政を始め多くの企業の期待も大きくなっている。一方で、地域の状況を見ると、魅力を十分に発信できていないのではないかという課題が見つかり、この課題に対しITを活用した解決策を研究し、学んだ知識や技術を地域へ還元したいと考え、このテーマを選びました。

## 取り組んだ内容とその成果と課題は・・・

### ○電子商取引(EC)の実践学習(ビジネス科)

◇「ヤフー株式会社」社員による「IT人材育成プロジェクト」の講義を受け、地元出店企業と連携し、ネットショッピングへの出品・販売を行うことで実践的なスキルを身に付けることができました。

◇IT人材育成プロジェクトにより、Webマーケティングの仕組みを理解し、インターネットを事業に活用できる知識や技術を習得することができました。

◆令和3年における日本国内のBtoCのEC市場規模は約20兆円。競争激化した市場で売り上げを創り出すためにはSTPの重要性を認識することが必要です。



※上記は授業で作成した商品ページの一部

### ○人口知能(AI)の実践学習(ビジネス情報科)

◇初年度は「ソフトバンク株式会社」と協力企業「木村情報技術株式会社」の協力で、自然言語処理型AIの「AIチャットボット(問い合わせに自動で解答する)」を体験構築し、実践的な技術を身に付けました。

◇2年目は、ソフトバンク株式会社の「AIチャレンジ」に取り組み、「中山道資料館」「中津川商工会議所」の協力の下、予測型AIの構築と予測精度の向上を学び、実践的なスキルを身に付けました。

◆AIは現代社会で様々な活用がされています。基礎や仕組みを理解したうえで解決したい課題を明確にし、活用するAI型を選定する必要があります。



AI企画発表会の様子

## 実践をとおして学んだことは・・・

- Web マーケティングの学習を通じて、地域産業の担い手育成に向けて大切にしなければならない要素に気づくことができた。地元の魅力を知ること、その魅力をどうやって全国の人たちに発信していくのかという壁に直面し、Web マーケティングは地元の魅力を発信する一つのツールであってゴールではないことを認識した。私たちにとって大切なことは、地元の魅力を発見し、ブランディングして多くの人々に届けることであり、地域の強みと課題を組み合わせるアイディアを生み出し、新たな付加価値を生み出していくことが、地域の課題解決と活性化につながることを学んだ。
- AI に関する取り組みに関しては、地域課題を初年度は「Web ページを活用した自然な応答による観光案内」に、2 年目は「集客予測を活用した効果的な観光資源の活用」に目標を置いたが、地域に還元し提案するには至らなかった。しかし、この最新技術に対する生徒の意識変革には十分に効果があり、活用に対するハードルはずいぶん低くなった。